

甲 第 号

濱田恵理子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	杉江 和馬
論文審査担当者	委員	教授	佐伯 圭吾
	委員(指導教員)	教授	山内 基雄

主論文

Multidimensional Prediction of Continuous Positive Airway Pressure Adherence

CPAP アドヒアランスの多次元的予測

Hamada E, Yamauchi M, Fujita Y, Nishijima T, Ikegami A, Takaoka T, Shirahama R,

Strohl KP, Muro S. Multidimensional prediction of continuous positive airway

pressure adherence. Sleep Med. 2024 Oct;122:177-184.

doi: 10.1016/j.sleep.2024.08.018. Epub 2024 Aug 20. PMID: 39182274.

論文審査の要旨

閉塞性睡眠時無呼吸（OSA）の標準的治療法 CPAP では、不十分とされるアドヒアランスの改善が喫緊の課題である。学位申請論文における本研究で、1133 人の CPAP 導入中の患者データを用いて、新規性あるクラスター分析が 90 日および 365 日後の CPAP アドヒアランス予測に有用であることを示した。公聴会では、詳細な研究方法と研究成果を丁寧に報告するとともに、本研究の新規性と有益性、限界についても適切に考察された。質疑では、CPAP 導入前にアドヒアランスが予測できる有用性に関する質問に対して、患者への適切な通院間隔の指導や早期の代替案提示、肥満症など併存症への介入強化などの積極的にアドヒアランスに介入が可能な点を挙げた。また、今回のアウトカムは CPAP アドヒアランスであるが、アウトカムが変わればクラスター分析に導入する説明変数が変わること、人種や国、背景疾患など研究対象が変われば説明変数の選択に考慮が必要であることを的確に回答された。以上より、本研究は CPAP におけるアドヒアランス改善という呼吸器病態制御医学の課題に対する重要な回答を示しており、公聴会での質疑と合わせて学位に値すると考える。

参 考 論 文

1. Pulmonary sarcoidosis with a cavitory lesion in the lung caused by a TNF- α inhibitor: A case report
Eriko Hamada, Yoshifumi Yamamoto, Yosuke Okuda, Kazuhiro Sakaguchi, Kentaro Suzuki, Yoshiro Kai, Maiko Takeda, Shigeto Hontsu, Motoo Yamauchi, Masanori Yoshikawa, Noriyoshi Sawabata, Chiho Ohbayashi, Shigeo Muro
Respirology Case Reports. 2022 Nov 18; 10(12):e1065.
2. Successful dabrafenib and trametinib combination therapy in a patient with recurrent BRAFV600E-mutant non-small-cell lung cancer and coexisting radiation pneumonitis
Eriko Nakamura, Masahide Ota, Ryosuke Matsuda, Maiko Takeda, Tomomi Fujii, Yoshifumi Yamamoto, Shigeto Hontsu, Motoo Yamauchi, Masanori Yoshikawa, Shigeo Muro
Respirology Case Reports. 2024 Jan 24; 12(1): e01277.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに呼吸器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年12月10日

学位審査委員長

臨床神経筋病態学

教授 杉江 和馬

学位審査委員

疫学

教授 佐伯 圭吾

学位審査委員(指導教員)

呼吸器病態制御医学

教授 山内 基雄